

自然と歴史と暮らしを活かして

嶺北の“元気”をつくる

—グリーンツーリズムの展開—

嶺北観光ビジョン

目次

1	嶺北地域の“元気”をつくるために	2
2	嶺北観光ビジョン検討委員会の経過	5
3	嶺北グリーンツーリズムの現在	6
4	嶺北グリーンツーリズムのめざすもの	12
5	これから展開するグリーンツーリズム	13
6	どのように進めていくか	19
	資料―嶺北観光ビジョン検討委員会名簿	24

1 嶺北地域の“元気”をつくるために

1. 「観光計画」から「地域の“元気”づくり」へ

【観光をとりまく状況の変化】

高知県は「南国土佐」のイメージで知られ、年間を通した温暖な気候と自然環境に恵まれていること、坂本龍馬など歴史上の人物を輩出していることなどをベースにした観光を展開してきました。

しかし「バブルの崩壊」以来長引いている不況の中では、観光に対する国民の嗜好がもっと手軽なものへ、もっと「本物」が味わえるものへ、と変化してきています。

「地域間の交流」が盛んに言われだしてきたことも、これまでの「観光」とは違うものを探していく必要があることをあらわしています。

こうしたことを背景にして、高知県では新たな「観光ビジョン」をつくることにしました。この「観光ビジョン」づくりは、従来の「観光」とは違い、地域にある素材や人を活かして、どう地域振興に結び付けていくか、という新たなビジョンづくりの模索でもありました。ビジョン作成の方法も、県全体の方針を先につくるのではなく、県下を七つのブロックに分けて、それぞれの地域の特徴を活かしながら、ビジョンを積み上げてつくる試みを行ないました。その一つとして、本「嶺北観光ビジョン検討委員会」で検討を進めてきたわけです。

【可能性が広がる嶺北地域】

これまで、中山間地であり交通の便が悪く施設の整備も遅れ、観光の面からも不利であったと考えられていた嶺北地域でしたが、このような状況の中でみると、新しい展開が見えてきます。嶺北地域には、豊かな自然や歴史の中で育んできた地域の生活や文化、そしてなによりも、そこで生活している魅力ある住民の方という地域資源があります。地域の資源を有効に活用し、嶺北地域を楽しみたいという人達を受け入れていくことができれば、新しい交流も生まれてきます。

その地域の自然や文化をゆっくり楽しもうという動きが「グリーンツーリズム」として全国で展開されはじめています。そして嶺北地域でもいろんな人達を受け入れていこうという動きも出始めています。この「グリーンツーリズム」を進めていくことは、嶺北地域を元気にしていく大きな可能性を持っています。

2. グリーンツーリズムとは

近年、全国でグリーンツーリズムが注目されてきています。その「グリーンツーリズム」については、様々なところで次のように言われています。

「緑豊かな農山漁村地域において、その自然、文化、人々との交流を楽しむ、滞在型の余暇活動」
 「農山漁村などに滞在し、その地域の農林漁業を体験したり、自然・文化・人々との交流を楽しむ旅」
 「自然豊かなまちにゆっくり滞在して、地元の人々との交流を楽しみながら田舎暮らしを体験する」
 「農業を中心とした地域を舞台に、都市と農村が、人々との交流を深めるもの」
 「ゆとりある農村生活を楽しむための活動や、地域ぐるみでの農畜産物の加工販売などの地域おこし活動が、結果としてグリーンツーリズムと呼ばれる」

これらのなかには、次のような言葉を共通してみることができます。これらの言葉がグリーンツーリズムのキーワードとなるようです。

田舎	農山漁村	自然	文化
	都市との交流	人々の交流	
楽しむ	ゆとり	地域おこし	

3. 嶺北地域の活性化策としてのグリーンツーリズム

嶺北地域では、すでに「嶺北交流ふれあい推進協議会」を設立し、嶺北地域のこれからの活性化の方策を検討してきています。

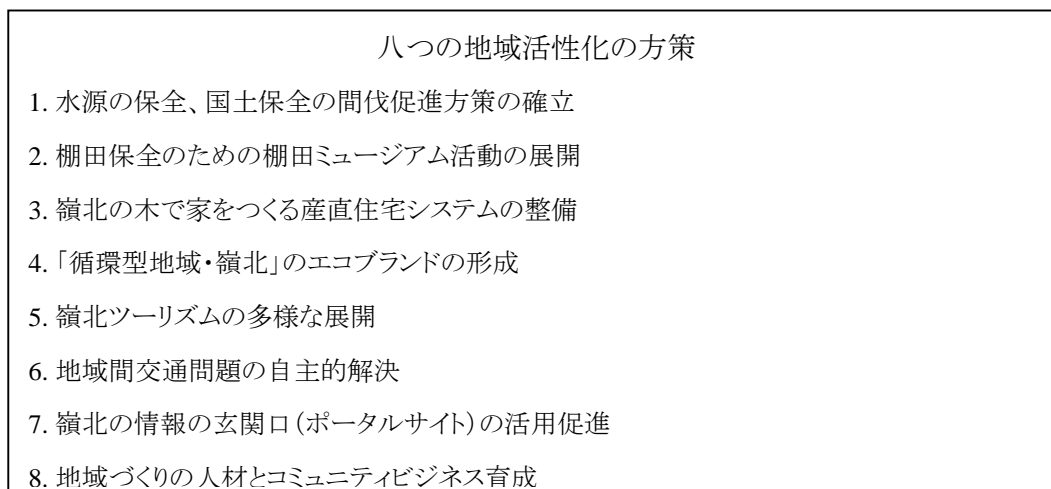
すでにまとめられた「嶺北住民が描く将来像の実現に向けて」の中では、「嶺北住民が描く将来像」を次のようにまとめています。

<p>嶺北住民が描く将来像</p> <p><input type="checkbox"/> 人のつながりを大切にして、他の地域の人との交流がもっと盛んになる地域にしたい。</p> <p><input type="checkbox"/> 自分たち自らが行動する地域をつくりたい。</p> <p><input type="checkbox"/> 森と水の恵みを活かした地域にしていきたい。</p> <p><input type="checkbox"/> 共に支えあって生きていける地域にしたい。</p>

この将来像に向けて、三つの地域活性化の目標を定めています。

<p>三つの地域活性化の目標</p> <p><input type="checkbox"/> 目標Ⅰ：森と水、棚田を守る【循環型地域づくり】</p> <p><input type="checkbox"/> 目標Ⅱ：産地と消費地の連結による【エコブランドづくり】</p> <p><input type="checkbox"/> 目標Ⅲ：交流・連携による【自立的な地域と人づくり】</p>
--

そして、この地域活性化の目標に向かって、八つの地域活性化の方策を定めています。

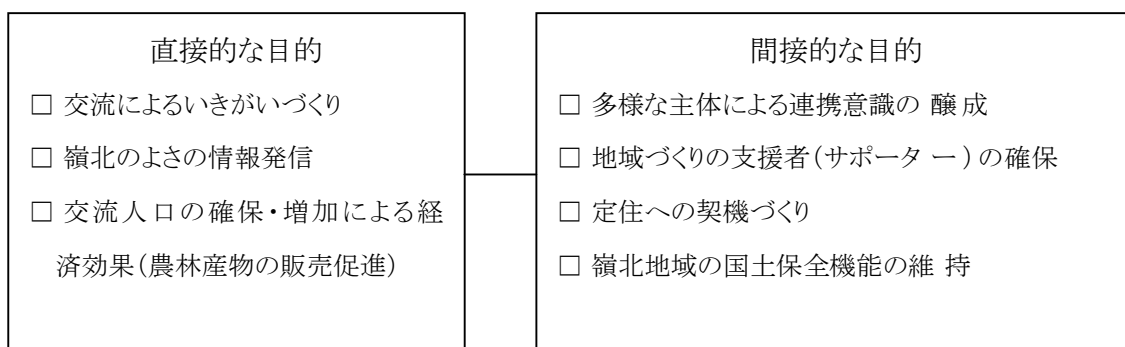


このように、嶺北地域では地域活性化に向けたいくつかの方策の一つとして「グリーンツーリズム」が位置付けられています。

4. 嶺北地域でのグリーンツーリズムの目的

平成 15 年 3 月に国土交通省四国運輸局でまとめた「嶺北地域における国土保全に資する地域活性化計画調査」では、「ツーリズムの展開は、『嶺北地域の魅力を高め、交流人口を拡大していく』という地域整備の基本戦略を実施に移す重要な戦術」と位置付けています。

そして、グリーンツーリズムの目的を、直接的な目的と間接的な目的に分けて、次のように整理しています。



嶺北地域でグリーンツーリズムを進めていくことは、嶺北地域の「地域おこし」そのものにつながっていくということが言えるでしょう。

2 嶺北観光ビジョン検討委員会の経過

日程	委員会等	内容
平成 16 年 6 月 16 日	第 1 回嶺北観光ビジョン検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・嶺北観光ビジョンの策定について ・嶺北観光ビジョンに関する意見交換 (ツーリズムでやりたいこと、地域資源、人材、課題等について)
8 月 13 日	第 2 回嶺北観光ビジョン検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・嶺北ツーリズムプログラムの検討<1> (「自然・食」「農林業」をキーワードにグループ協議)
10 月 13 日	第 3 回嶺北観光ビジョン検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・嶺北ツーリズムプログラムの検討<2> (ツアープログラム案の検討と地元の取組み等についてグループ協議) ・「お試しツーリズム」(第 4 回検討委員会)の実施内容について検討
11 月 17 日	第 4 回嶺北観光ビジョン検討委員会 (「お試しツーリズム」の実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・「水の学習～水のふるさとを訪ねて」をテーマに、汗見川地区において日帰りツアーを実施(川沿い景観散策、そば打ち体験、講話、早明浦ダム見学等)
12 月 13 日	第 5 回嶺北観光ビジョン検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・「嶺北観光ビジョン(案)」の検討



そば打ち体験風景

3 嶺北グリーンツーリズムの現在

1. 素材はある

「原生の森と水」「自然と共生していく」「大自然とふれあう」「水のふるさと」……

嶺北をあらわす言葉はさまざまですが、どれも豊かな自然をあらわしています。そしてその自然を中心に、歴史、自然とふれあう施設、自然を舞台にしたイベントや行事など、「都会の人に教えてあげたい、楽しんでもらいたい」ものがたくさんあります。

□自然資源

	自然資源
全体	吉野川
大豊町	梶ヶ森県立自然公園
	竜王の滝
	大杉
	福寿草の里
	奥大田溪谷
本山町	帰全山公園
	若宮・上街公園
	汗見川溪谷
	白髪山
	赤滝
	佐々連尾山
	樽の滝
土佐町	日本一乳公孫樹
	工石山陣ヶ森県立自然公園
	瀬戸川溪谷
	アメガエリの滝
	棚田周辺の景観
大川村	大北川溪谷
	小金滝
	妃ヶ淵
	翁の滝
	銚子滝
	甌穴
	大座礼山の霧氷、ブナ原生林

□歴史文化施設

	施設名
大豊町	旧立川番所書院
	豊楽寺薬師堂
	定福寺万葉植物園
	大豊町立民俗資料館
本山町	本山一揆の岩屋
	俳句の道
	大原富枝文学館

□観光施設

	施設名	
大豊町	ゆとりすとパークおおとよ	ハーブ園、レストラン、ショップ、クラブ トコーナー、オートキャンプ場、コテ ジ、プレイロット
	梶ヶ森キャンプ場	
	梶ヶ森天文台	
本山町	奥白髪温泉	
	四季菜館	
	冬の瀬キャンプ場	
	白髪山ふれあいの村休養センター	
	帰全山キャンプ場	
土佐町	早明浦ダム	
	桂月館	
	木遊館「樹華夢」	
	道の駅「土佐さめうら」	
	ふれあい牧場交流館	
	さめうら森林公園	
大川村	白滝の里	スポーツコミュニティセンター、自然教育 センター白滝、農林漁業体験実習館、里の 茶屋
	木星館	

□イベント・行事

	歴史的な行事	交流、農業関連	自然体験	スポーツ、レク	文化的イベント
大豊町	川戸百手、桃原百手、永淵百手 岩原・永淵神楽 薬師大祭 施餓鬼舟		福寿草まつり 蓮まつり		
本山町	上下関阿弥陀堂奉納相撲 十二所神社秋の大祭 若一王子秋の大祭 三倉神社祭	本山町民祭	もとやま花祭り 汗見川自然まるごと岸ツツジほのぼの体験ツアー サマーイン滝山アメゴまつり	兼山廟春期大祭奉納はし拳大会 高知・本山汗見清流マラソン大会 吉野川いかだ祭りいかだ早くだりレース 南部地区農民運動会	右城暮石顕彰全国俳句大会 本山町産業祭
土佐町	伊勢川大黒祭 宮古野虫送り 南川百万遍祭 中島観音様夏の大祭 野中祭 白髪神社中日祭 高嶺神社秋の大祭 河内神社秋の大祭	桃源郷オーナー会議 やまびこカーニバル 相川納涼祭 石原納涼祭 地藏寺盆踊り大会 りんご狩り ぶどう狩り 嶺北畜産能力共進会	アメゴ釣り大会	さめうらの郷 湖畔マラソン大会	土佐町産業文化祭
大川村		白滝ふるさとまつり 大川村謝肉祭 村民祭			

□体験メニュー

	事業（体験）名	事業内容	受け入れ時期
大豊町	ラフティング	自然のパワーと達成感を全身で体感できるラフティング	4月～9月
	歴史の道体験	参勤交代道散策と立川御殿見学、御殿茶屋での立川そば賞味	春、秋（6時間）
	山菜採り体験	ぜんまい、わらび、いたどりの収穫、加工体験と郷土料理体験	4月中旬～5月はじめ（5時間）
	季節の野菜収穫体験	野菜収穫体験と郷土料理体験	通年（5時間）
	ユズ収穫、搾汁体験	（町内3箇所）	10月下旬～11月中旬
本山町	ラフティング、カヤック、シャワークライミング、トレッキング体験	自然のパワーと達成感を全身で体感できるラフティング、水と親しむレベルから技術を修得できるカヤックスクール&ツアーなど	通年
	カヌースクール、カヌーレンタル・ツアー	小中高校生の遠足などで行なう短時間の体験や個人、ツアー客対象の初心者から上級者までのレッスン、ツアーガイド	3月～11月
	自然体験、田舎料理体験	地域で取れた殖財を使い、そば打ち体験、こんにやくづくり体験。また、四季を通して美しい汗見川の散策	通年
	「俳句の道」散策	本山町出身の俳人、右城暮石先生を顕彰して建立された、俳句界の著名な方々の20基の句碑を巡る	通年
	こんにやくづくり	昔ながらの手法で、こんにやくの手作り	要相談
土佐町	陶芸体験	陶芸作品の製作	通年
	あめご 釣り堀・つかみどり	バーベキュー施設もあり、とった魚などをすぐに食べることもできる	春～秋
	乗馬・動物とのふれあい	乗馬・羊の毛刈り体験、馬・羊・ウサギ他小動物とのふれあい	春～秋
	木工教室	間伐材や雑木を利用した木工教室	通年
	農林業体験	田植え、稲刈り、間伐体験	春～秋
大川村	こんにやくづくり	こんにやく芋をミキサーでつぶし混ぜて灰汁を入れ、型に整えてゆがく 約2時間	通年
	豆腐づくり	つぶした大豆を煮て布でこす（おからと豆乳に分かれる）にがりをに入れて型に移し重しをする 約2時間	通年
	木箱づくり	アクセサリ-BOXになるキットで作る	通年
	炭焼体験	間伐材を使って炭焼をする	通年
	登山	白滝にある野地峰 片道約1時間15分 天候によっては瀬戸内海が見える	通年 冬場は積雪あり
	牛の世話	大川黒牛を飼育している牛舎で清掃したり餌を与える	通年

2. がんばっている人たちがいる

嶺北ではすでに「嶺北の良さをもっと知ってもらおう」と様々な体験ができる「体験メニュー」が用意されています。これらは、これから行なう「嶺北グリーンツーリズム」をすでにスタートさせているとみることもできます。

こうしたがんばっている人たちを中心にしているいろいろな体験メニューを増やしていくこと、あるいは連携を取りながらグリーンツーリズムを発展させていくことは十分に可能だと思われまます。

□体験メニューを行なっている団体等

活動団体等	市町村	体験メニュー
立川体験交流会（長野永子）	大豊町	歴史の道体験、山菜採り体験
小笠原須賀子		季節の野菜収穫体験
大杉観光センター		ユズ収穫、搾汁体験
庵谷ふれあいファーム組合		合鴨ツアー（合鴨の放鳥、稲刈り）
モンベルアウトドアチャレンジ四国 本山事務所	本山町	ラフティング、カヤック、シャワークラ イミング、トレッキング体験
柿本産業株式会社（柿本スポーツ）		カヌースクール、カヌーレンタル・ツ アー
汗見川活性化委員会地域づくり推進 部会		自然体験、田舎料理体験
大原富枝文学館（右城暮石顕彰委員 会）		「俳句の道」散策
北山東生活改善グループ		こんにやくづくり
やまびこ窯	土佐町	陶芸体験
土佐アメゴ養殖（株）		あめご 釣り堀・つかみどり
ロンスター・カントリー・ファーム		乗馬・動物とのふれあい
さめうら工房		木工教室
ゆい 結の里（道の駅土佐さめうら）		貸農園
観光農園		りんご狩り、ぶどう狩り
大川村ふるさとむら公社	大川村	こんにやくづくり、豆腐づくり、木箱づ くり、炭焼体験、登山
大川村和牛生産組合		牛の世話

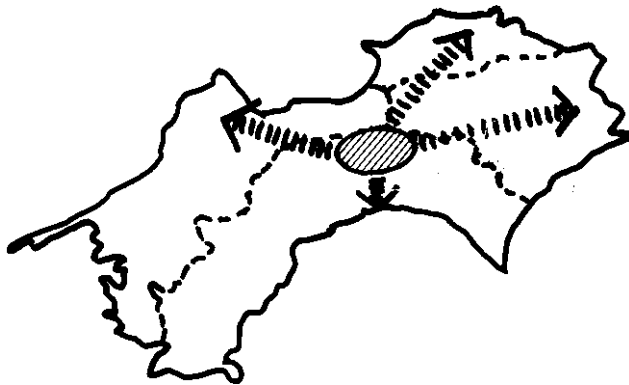
3. 立地を活かせる

嶺北を言いあらわす言葉に「四国のだ真ん中」というものもあります。これは、嶺北地域が急峻な四国山地の中にあり、過疎が進んだ地域というマイナスイメージだけでなく、四国の中では、高知県にありながら、徳島県・愛媛県とも隣同士にあり、香川県ともすぐ近くにあるというプラスイメージも併せ持っています。

嶺北地域は、吉野川の上流にあたることから、すでに吉野川の下流地域にあたる徳島市との交流も行なわれています。

こうした立地を活かすことも大きな財産になります。

□四国の中での嶺北地域の位置



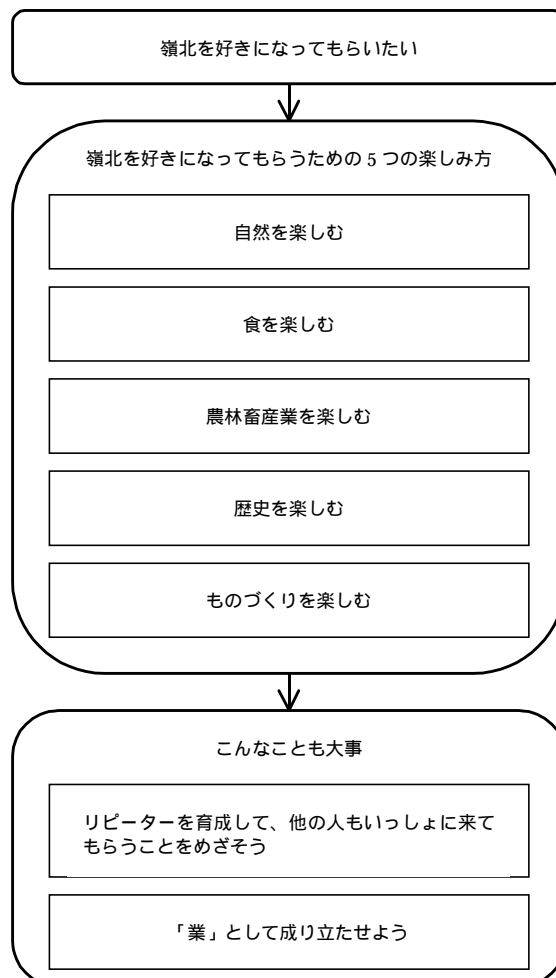
4 嶺北グリーンツーリズムのめざすもの

「グリーンツーリズムは、私達が楽しめるものを都会から来た人と一緒に楽しむことをすればいいのでは」—委員会での話し合いで出た言葉でした。そして「グリーンツーリズムを通して、嶺北を好きになってもらいたい」—このことが、委員会の話し合いを通して、嶺北がめざすグリーンツーリズムとして一致しました。

委員会で作られてきたグリーンツーリズムの内容は、「自然を楽しむ」「食を楽しむ」「農林畜産業を楽しむ」「歴史を楽しむ」「ものづくりを楽しむ」に分類されます。この5つのことを通して「嶺北を好きになってもらう」ことをめざします。

そして同時に「一回だけでなくリピーターを育て、その人が他の人も連れてきてくれるように」めざすこと、あるいは「ボランティアではなく、『業』として成り立つこと」をめざすのも大事である、ということも確認されました。

□ 嶺北グリーンツーリズムのめざすもの



5 これから展開するグリーンツーリズム

1. 様々な展開が可能な嶺北グリーンツーリズム

委員会で出されたグリーンツーリズムの「要素」を整理すると次のようになります。

	現在行っているもの	こんなツアーを考えよう	こういうものも利用できれば
自然を楽しむ	ラフティング、カヤック、シャワークライミング、トレッキング体験 カヌースクール、カヌーレンタル・ツアー 汗見川自然体験 あめご 釣り堀・つかみどり 乗馬・動物とのふれあい 登山 ダム見学	いかだづくり	白髪山、工石山、稲叢 ロッククライミングセンター あぜ道の散策 あけぼのつつじ 紅葉 吉野川の源流点 村道瓶ヶ森線 瀬戸川 奥白髪温泉 大座礼山のブナ原生林 嶺北の野菜（嶺北八菜） 四季菜館でのフランス料理
食を楽しむ	こんにやくづくり 豆腐づくり そば打ち体験	餅つき どぶろくづくり 食材を自ら採って調理する	碓石茶 そばまんじゅう はんげ団子 薬草
農林畜産業を楽しむ	山菜採り体験 季節の野菜収穫体験 ユズ収穫・搾汁体験 炭焼き体験 牛の世話	農業体験、野菜の植え付け、稲刈り、芋掘り 貸農園、滞在型市民農園 間伐体験、伐採 棚田体験 植林体験	
歴史を楽しむ	歴史の道体験 「俳句の道」散策		白滝鉱山 塩の道 平家の落人伝説 古老の伝え話し 本山一揆 神楽 お茶会 「うたがき」という風習 薬師堂 定福寺
ものづくりを楽しむ	陶芸体験 木工教室	製材 一本の木から製品まで作るツアー	
宿泊	旅館、民宿 公民館 キャンプ場	休校になった学校を宿泊に 農泊	梶ヶ森山荘
今ある施設の利用			ゆとりすとパーク しずく小屋 おこぜハウス 結の里

2. こんなグリーンツーリズムを展開していこう

前ページに整理されているグリーンツーリズムの「要素」から、これから展開するツーリズムのメニューを委員会で話し合ってきました。

その考え方は次のように整理されます。

1. 日帰りメニューを増やそう

「要素」をつかって、すぐにでもできそうな日帰りのメニューを考えます。

2. 今あるものをつなげて新しい魅力をつくろう

今行なっている日帰りメニューや、新たに考えられた日帰りメニューをつないで、新しい魅力のメニューを考えます。

3. 土地や施設の有効利用をはかろう

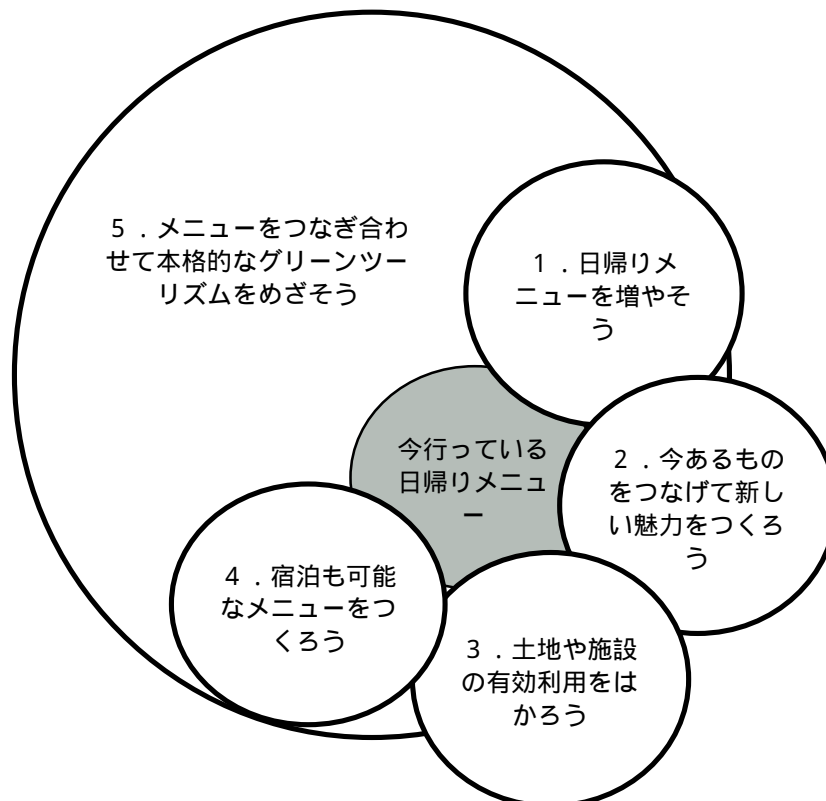
遊休土地や休校となった学校などの新たな利用法から、ツアーのメニューを考えます。

4. 宿泊も可能なメニューをつくろう

農泊や休校となった学校を利用した宿泊などが可能となれば、ツアーのメニューも広がってきます。

5. メニューをつなぎ合わせて、本格的なグリーンツーリズムをめざそう

1～4のメニューが可能となれば、それらのメニューをさらにつなぎ合わせて、長期滞在も可能なメニューが考えられます。



3. こんなグリーンツーリズムのメニューをつくりだそう

(1) 日帰りメニューを増やしていこう

日帰りメニューは、家族やグループを受け入れるメニューとして有効となるばかりでなく、高知への団体旅行、修学旅行のオプションメニューとしても可能であり、グリーンツーリズムの幅を広げることができます。

1. 汗見川を楽しむ	対象
汗見川散策、そば打ち体験、地域との交流、間伐材でイカダづくり	家族、グループ、総合学習、修学旅行

現在行っている「自然体験、田舎料理」に、イカダづくりなどを追加してよりいっそう楽しいメニューをつくり出していきます。

(2) 今あるものをつなげて新しい魅力をつくろう

今あるものの中でも、それらをつなぎあわせると、新たな魅力を引き出していくことができます。

2. 句碑巡りと嶺北食材でフランス料理を楽しむ	対象
2時間程度の句碑巡り、四季菜館料理	家族、グループ

現在行なっている「句碑巡り」と、近くにある四季菜館の料理をつなげて、より豊かなメニューをつくり出していきます。

3. 水のふるさと訪問	対象
早明浦ダム見学、ダムについての学習、吉野川でのカヌー体験、ゴムボートふかふか体験 昼食に嶺北牛のバーベキュー	家族、グループ、修学旅行、総合学習

早明浦ダム見学と吉野川でのカヌー・ゴムボート体験をつなげ、昼食に嶺北のおいしさを提供するというツアーを考えます。吉野川上流の環境の意義も合わせて考えられるものにしていきます。

4. きれいな星空と嶺北牛を楽しむ	対象
ゆとりすとパークのコテージ宿泊客へ、四季菜館の嶺北牛ステーキのデリバリーサービスを行う	個人、家族、グループ

ゆとりすとパークに、四季菜館の料理をサービスすることによって、より豊かな旅の楽しみを提供することができます。

5. 大座礼山ブナ原生林とスローフードの旅	対象
弁当を持ってブナ原生林をトレッキング、「棚田カフェ」でティータイム、温泉、ぶどう狩り	個人、家族、グループ、修学旅行

大座礼山と棚田、温泉、地元の料理、果樹を結ぶことによって、嶺北の良さを凝縮した旅を提供することができます。

6. 吉野川を遊びつくす	対象
汗見川散策、そば打ち体験 吉野川でのカヌー体験、ゴムボートふかふか体験	個人、家族、グループ、修学旅行、総合学習

汗見川のツアーと吉野川でのカヌー・ゴムボート体験をつなぎ合わせて、「3、水のふるさと訪問」とはちがった、川の魅力を楽しむツアーを提供することができます。

(3) 土地や施設の有効利用をはかろう

7. 嶺北で農園のオーナーに	対象
遊休地を利用して、都会の人に農作業を楽しんでもらう	個人、家族

遊休地を利用して都会の人達にオーナーになってもらい、農業を教えながら、オーナーの人達に農業の楽しさや野菜などのおいしさを知ってもらうことを考えていきます。

(4) 宿泊も可能なメニューをつくろう

宿泊も可能なメニューも用意できれば、ツアーの内容も幅が広がってきます。

8. 嶺北でゆっくりすごすお正月	対象
12月30日～1月2日 餅つき、スキー、そば打ち、温泉、おせちづくり、どぶろく、初詣で、神楽、など	大阪圏の個人、家族、グループ

お正月を嶺北ですごしてもらうことは、おそらく嶺北の生活の良さを一番わかってもらえることとなります。大阪圏の人たちを対象に考えれば、「田舎」の良さをいっそう感じてくれるでしょうし、野菜などの嶺北の製品の販路拡大にもつながっていく可能性があります。

(5)メニューをつなぎ合わせて本格的なグリーンツーリズムをめざそう

現在行なっているもの、これから新たに考えていくもののメニューの中から、一つのテーマに基づいてつなぎ合わせていけば、本格的なツーリズムも考えていくことができます。

9. 汗見川農業小学校	対象
4月から12月まで5回程度のツーリズム [4月]入校式、田植え [5月]ネギその他の植え付け [7月]キャンプ [8月]稲刈り、芋掘り [12月]餅つき、そば打ち、卒業式	個人、家族、グループ

田植え、キャンプ、稲刈り、芋掘りなどは、それぞれでも一つのツーリズムのメニューを考えることができます。それらをつなぎ合わせて「農業とその生活を知る」というテーマで、長期間のツアーも考えることができます。

10. 一本の木からの学校	対象
木から製品になるまでを学習する、4回程度のツーリズム [1回目]木を伐採する [2回目]製材を行う [3回目]製材したのから製品への過程を学ぶ [4回目]製品をつくる	個人、家族、グループ

「一本の木から製品になるまでを知る」というテーマで考えたツアーです。

以上の10のツアーメニューは、嶺北にある「素材」から「こんなものができるのではないか」というアイデアの代表例として、委員会で話し合われた内容をもとに整理したものです。これらの他にもたくさんツアーメニューが考えられます。

また、「森林環境税」が導入されましたが、これを利用してたとえば「間伐体験ツアー」や「森林について学ぶツアー」などが考えられ、参加しやすいプログラムづくりや受け入れ体制の整備など、今後引き続き検討を進めていく必要があります。

(6)よろこんでもらえる「おみやげ」を考えよう

旅行に行ったら、記念になるものや気に入ったものを手に入れたくなるものです。ツアーの中に「道の駅」や、改築された「大杉駅」などを入れておくと喜ばれるかもしれません。

また、農作業や山の作業を行なうためには道具が必要になりますが、包丁や鎌などを、「マイ道具」として買ってもらい体験してもらえれば、思い出深い愛着のあるおみやげになると考えられます。また、山野草は嶺北の魅力をよく表しています。竹の器に入った山野草は家に持ち帰った後も嶺北を思い出してもらえらるおみやげになります。

□ 嶺北グリーンツーリズムツアー一覧

		ツアーの楽しみ方					対象					
		自然を楽しむ	食を楽しむ	農林畜産業を楽しむ	歴史を楽しむ	ものづくりを楽しむ	個人	家族	グループ	総合学習	修学旅行	大阪圏
すでに 行 て い る も の	歴史の道体験											
	山菜採り体験											
	季節の野菜収穫体験											
	ユズ収穫、搾汁体験											
	ラフティング、カヤック、シャワークライミング、トレッキング体験											
	カヌースクール、カヌーレントアル・ツアー											
	自然体験、田舎料理体験											
	「俳句の道」散策											
	陶芸体験											
	あめご 釣り堀・つかみどり											
	乗馬・動物とのふれあい											
	木工教室											
	こんにゃくづくり											
	豆腐づくり											
	木箱づくり											
	炭焼体験											
	登山											
牛の世話												
こ れ か ら 進 め る も の	1 汗見川を楽しむ											
	2 句碑巡りと嶺北食材でフランス料理を楽しむ											
	3 水のふるさと訪問											
	4 きれいな星空と嶺北牛を楽しむ											
	5 大座礼山ブナ原生林とスローフードの旅											
	6 吉野川を遊びつくす											
	7 嶺北で農園のオーナーに											
	8 嶺北でゆっくりすごすお正月											
	9 汗見川農業小学校											
	10 一本の木からの学校											

※委員会で話し合われたことを基にツアーの代表例をあげています。メニューはまだまだ考えられます。

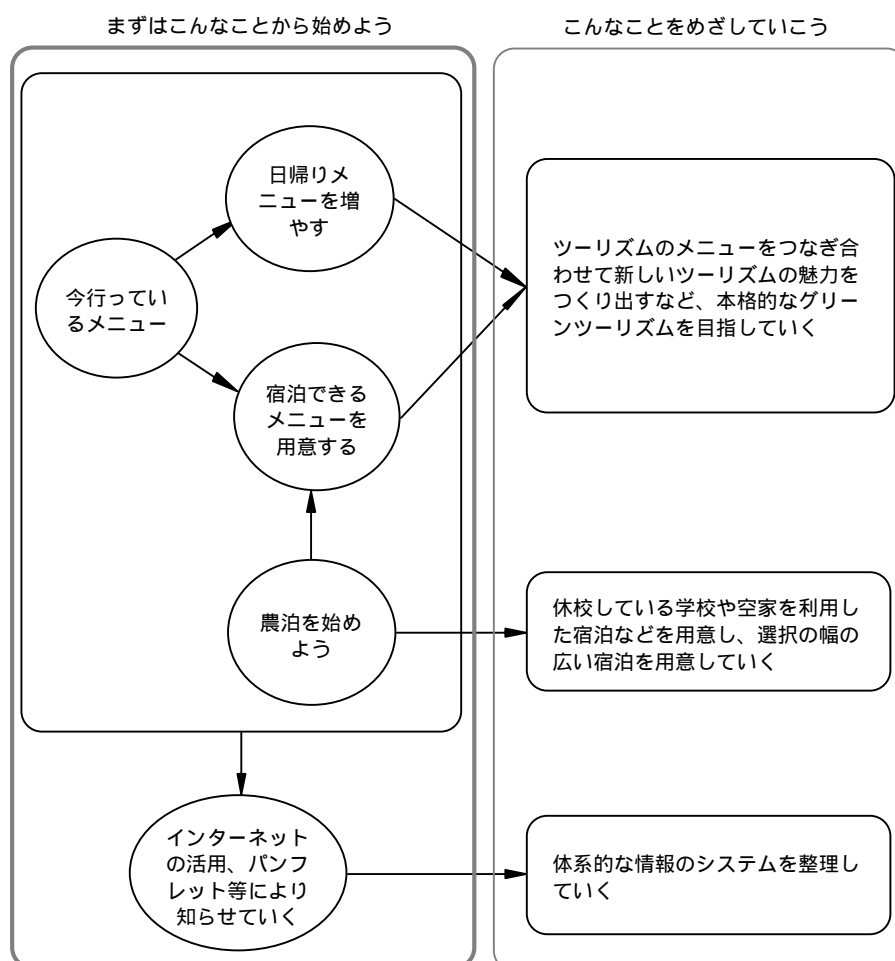
6 どのように進めていくか

1. できるところから始めよう

グリーンツーリズムは、考えられたメニューを一度に始めることには難しさがあります。まずできるところから始めて、段階を追ってこのビジョンに向かっていくが必要になってきます。

今行なっているメニューを基にして、まずできそうな日帰りメニューを増やしていく必要があります。それだけでも対応できる幅が広がってきます。また、農泊などを始めることができれば、宿泊も可能なツーリズムのメニューも用意することができます。

同時に、外へ知らせていくことが大事になります。これまではツアーの主催者自身と役場からのパンフレットなどが中心でしたが、将来は県や町村、観光団体、観光事業者、ツアー主催者が一体となった情報システムを築いていくことが求められます。これまで同様パンフレット等によるPRも行なっていく必要もありますが、ツアー主催者でホームページを持つこと、それが行政や観光団体などとリンクしていくことを、考えていく必要もあるでしょう。



2. 情報のシステムを整えよう

(1) 情報網を整備しよう

外に向かって分かりやすい情報を整理するために二つのことが必要になります。

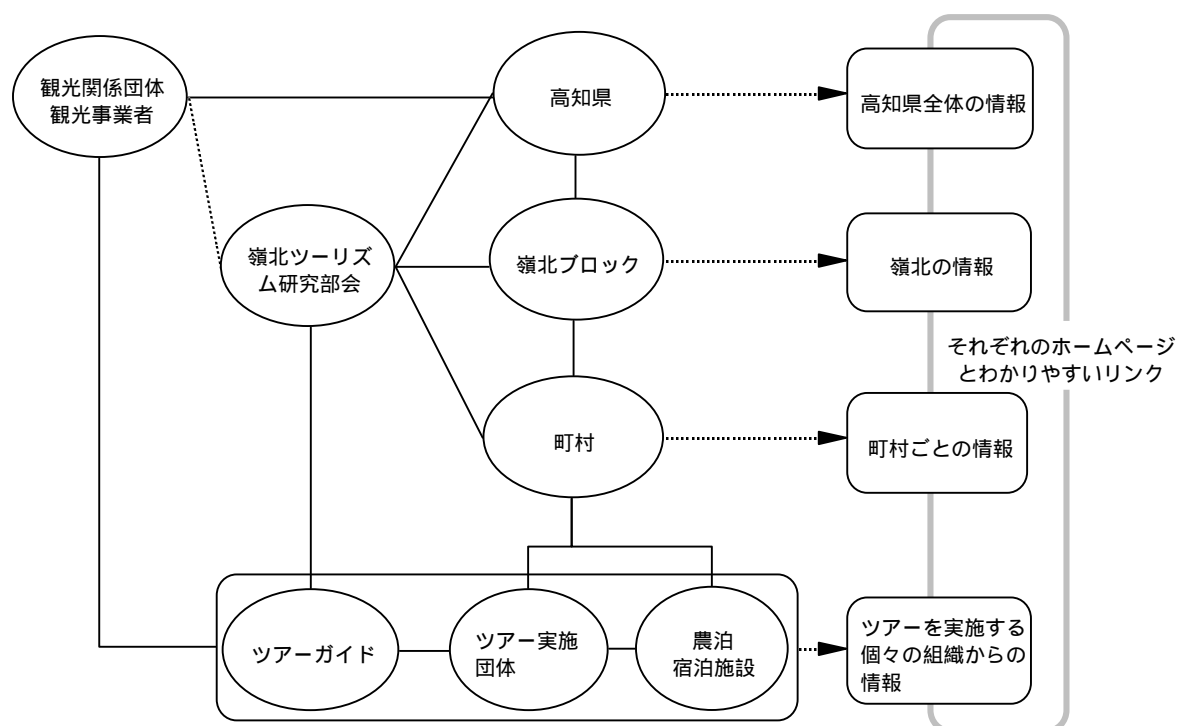
1. 情報のネットワークができていないこと

ツーリズムのそれぞれの情報を、町村の段階、嶺北ブロックの段階、高知県の段階それぞれで整理されている必要がありますし、それらがわかりやすく連携をもっていることも必要になります。そのためにインターネットを利用して、それぞれのホームページがわかりやすくリンクするよう整備することをめざします。

2. 人のネットワークができていないこと

グリーンツーリズムが展開されていくと、一つの地域や一つの町村に留まらず、嶺北地域に広がったツーリズムも生まれてくる可能性もあります。個々のツアーについてはその実施団体が案内することができますが、町村全体あるいは嶺北全体のツアーの案内もできる人が求められます。そのような全体を把握している「ツアーガイド」ともいべき人を育てることをめざします。

また、そのツアーガイドが、「嶺北ツーリズム研究部会」や県、あるいは観光事業者、観光関連団体と連携がとれる体制をつくり、全体の調整や外へのPRの体制をめざしていきます。この人のネットワークが情報のネットワークにも生かされていきます。

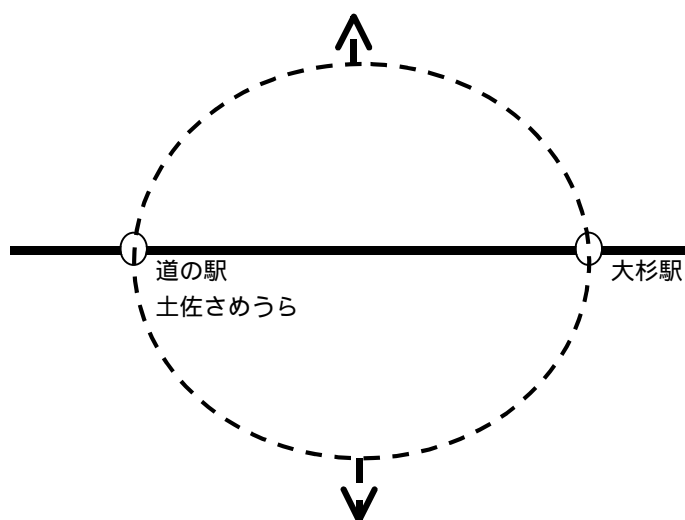


(2) 情報拠点を整備しよう

ツアー参加者にとっては、「ここに来れば全体の情報がわかる」という場所があれば安心できます。その場所を、道の駅土佐さめうら、JR 大杉駅に設定します。

ここでは、グリーンツーリズムに関する情報がわかること、嶺北の特産品などのお土産があること、ツアーの出発点や集合場所になることなどが求められます。

同時に、これらの情報拠点としての機能と、前ページにある「情報のネットワーク」「人のネットワーク」と連携がとれている必要があります。「ツアーガイド」もここを拠点に活動することも考えていきます。



3. 宿泊施設を確保しよう

以下のような宿泊形態を新たに用意することによって、従前の宿泊施設—旅館、民宿、キャンプ場、公民館など—から、選択の幅の広い宿泊施設の提供が可能になります。そのことによって、グリーンツーリズムのツアーメニューの幅も広がってきます。

(1) 農泊

少人数による農林業体験などとあわせて農家に宿泊できれば、さらにお客様に喜ばれるツアーとなります。

(2) 空家の利用

空家を利用して、グループや家族で利用する宿泊施設も検討していきます。食事は自炊も可能となりますし、別料金で地元の料理を提供することもできます。

(3) 休・廃校となった学校の利用

たとえば休校となった小学校を利用できれば、大人数の場合の宿泊が可能となります。

小学校には教室の他に講堂あるいは体育館、グラウンドもありますので、宿泊と同時にツアーのメニューをここで行なうこともできます。

また、嶺北は雨の多い地域でもありますので、雨の日の対応も考えておく必要もありますが、小学校の校舎を利用できれば、屋内でのメニューを行なうこともできます。

4. 「嶺北ツーリズム研究部会」を続けて行こう

嶺北地域でのグリーンツーリズムはまだまだ始まったばかりです。考えなければならないことはたくさんあります。これからも「嶺北ツーリズム研究部会」を続けて、次のようなことを検討して行きます。

「嶺北ツーリズム研究部会」で進めること

情報の整理、ツアーメニューの検討、役場との調整、役割分担、県との調整、元気応援団との協力
など

情報の整理や発信は、今後のグリーンツーリズムの展開にとって重要な課題となりますが、これに関しては嶺北交流ふれあい推進協議会「嶺北グリーンツーリズム研究部会」で検討するだけでなく、「嶺北地域ポータルサイト研究部会」と連携をはかる必要があるでしょう。

5. 「(仮称)嶺北ツーリズム企画」を発足させよう

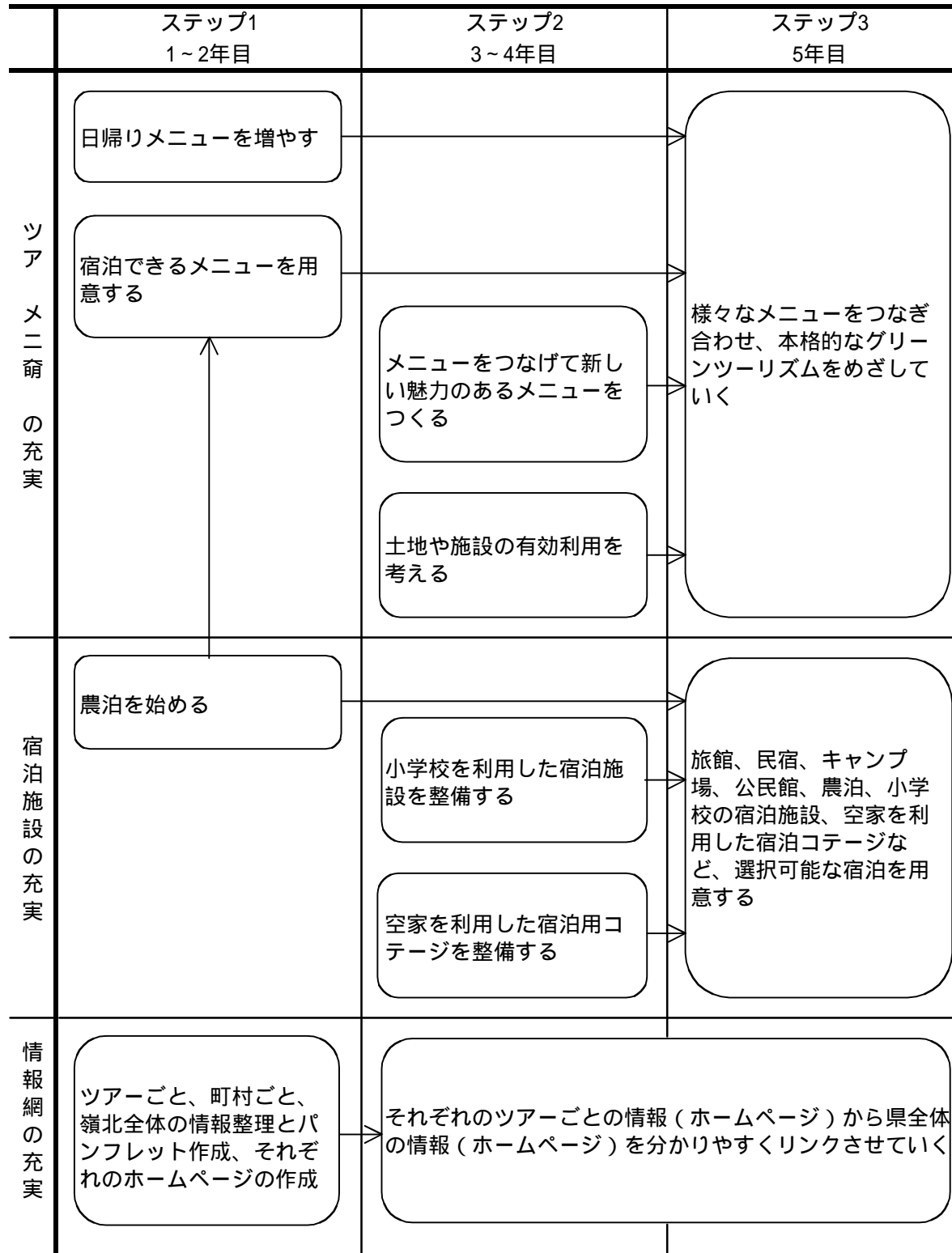
今後、新しいツアーメニューを考えたり、ツアーどうしをつなげて新しいメニューを考えたりしていく必要がありますが、ツアーの主催者は、自分の抱えているツアーを成功させることで手が一杯になります。また、民間の行なうことに対しては、行政はなかなか入り込めない難しさがあります。

嶺北でグリーンツーリズムを発展させていくためには、外からの情報をキャッチし、嶺北に必要な情報を選択し、嶺北にあるたくさんの素材や人材をつなぎ合わせて、外へ発信できるツアーを企画していかなければなりません。

そこで、行政や大きな旅行会社に頼らない、地域のニーズにあったグリーンツーリズムの企画を考え実行していく機関が必要になります。

6. 嶺北グリーンツーリズムへの段階計画

以上のことを考えあわせ、以下のような段階で進めていきます。



嶺北観光ビジョン検討委員会名簿(地元委員)

	委員名	所 属 等	
1	長野 永子	大豊町立川地区体験交流の会	会長
2	川村 芳朗	本山町汗見川活性化委員会	
3	岡林 弘	越裏門・寺川地区村おこし協議会	会長
4	細川 博之	伊勢川集落営農協議会	副会長
5	山中 義雄	道の駅「土佐さめうら」	駅長
6	吉村 優一	(株)大豊ゆとりファーム	専務取締役
7	山下 由子	(株)とさ千里	代表取締役社長
8	山本 速水	(株)山本森林工房	代表取締役社長
9	古田 浩二		
10	森 洋子	本山町生活改善グループ	会長
11	野村 直哉	MOC四国	マネージャー
12	近藤 京子	大川村ふるさと公社	専務理事
13	泉 祐司	(財)本山町農業公社	事務局長
14	近藤 好博	NPO法人・土佐さめうら観光協会	常務理事
15	松下 健一	大豊町商工会	事務局長
16	森 文明	土佐地区商工会	事務局長
17	安岡 好孝	本山町商工会	事務局長
18	柿本 英児	本山町観光協会	会長
19	石川 靖朗	大豊町観光協会	会長